

# 1. 兵役

(※ 関連資料のある箇所は太字で示してあります。)

## 6. (2) レンパン島

【木 田】シンガポールにいたもんですから、一番早く英軍がやってきて、一番早く追い立てを食ったわけですね。追い立てられて行った島がレンパン島という島で、ほぼ無人島だったわけです。しかしそこへ、一番最盛期には2万、3万という人間が入った。で、レンパンだけで足らなくなって、その目の前にあるもう一つ大きいインドネシアの島でしたか、そっちへも追い込んだことがございましたが、食べ物がまずなくなってくるわけですね。食べ物がなくなってきたものですから、みんなごそごそと海草を食べ歩く、それからサルやなんかが食べている木の実は、人間も食べられるだろうというんで、それをみんなが食べていく。人間様の方がたくさん入ったんだから一遍にそういうものがなくなって。私自身があっと思ったのは、最初にレンパン島の図面を引いて、どこへどれだけの部隊を収容して、待っていてもらわなければならないというので図面を引いたときに、それはいろいろと湿地帯がたくさんありますし、川があるし、流れている。水の近くというのが大事なもんですから、川の流れと水というのは大事にして、道路をつくって、それぞれの部隊が自分の自活用の畑をつくって行ってこようやる。人間が入ってきましてね、木を切っちゃったら、あっ湿地帯がどっか行っちゃったんです。

で、海がね、すぐ近くで魚が捕れていたと思っていたやつが、ずっと向こうまで、遠くに探しに行きなきゃならんし、魚はもう捕まらんことになってしまったというような変化が起こりましてね、その後日本が南方へ行って木材を切っているから、どうもならんという現象が、ささやかながら敗軍の兵隊やいろんな日本人の集団を世話したおかげでね、いやこれは大変なことだなあと思った。道路をつけるのにも、ここはこんな大きい川があるから、しっかりした橋をつくって行って、橋をつくって物資を運ばなならんもんですからね、道路をつけなきゃいかん。そしてでき上がってみたら、川がなくなっちゃっているんですね。ですから、これはえらいことだなあというふうに思いました。それほど人間がやっぱりこう自然を変えていっているんですね。これも大変な経験で。そうして、早く帰せということになったが、船が来なきゃしょうがないんですけれどもね。私どもが配船というか、乗船の世話をしておるもんですから、やつつけられるわけですよ。ですから、いろんな社会勉強というのをその間にさせてもらったというのがレンパンの生活でした。